



鹿児島県
指宿市「まめそら」

小規模農業の光 そら豆の6次産業化

2人3脚で挑む 新たな農業のかたち



薩摩半島の南端、温泉地として有名な鹿児島県指宿市はそら豆生産量日本一を誇る農業の町でもある。そこで店長の水迫さんが1人で手がける“そら豆の専門店”まめそら。WEBを活用し、1次生産者から直接消費者のもとへ商品を届ける通販事業に取り組んでいる。店長とインターン生、2人が歩んだ8か月間から見る農業の6次産業推進秘話。

インターンシップが企業に与えた影響

- (1) SNSでの情報発信やイベント企画など、広報を強化することで新規顧客の獲得に繋がった。
- (2) WEBのアクセス数が2.5倍、直帰率は10%減少し、売上・利益も2倍以上に増加した。
- (3) 新商品「冷凍そら豆」の開発を大幅にすすめることができた。

チャレコム事務局の注目ポイント

今やどの地域でも聞かれる言葉「農業の6次産業化」。しかし、それを個々の農家が行うのは容易ではない。加工に関する設備資金の調達や、新たな販路開拓などの課題をひとつずつ乗り越えていきようやく、少しずつ光がみえてくる。その最初のステップを、農業に対して1人1倍の思い入れがある若い人材と共に、仕掛けていったこの事例は、6次産業化を「誰と」「どのように」始めるかについて多くのヒントをくれる。

そら豆専門店の新たな挑戦

こだわりのある高品質な野菜を適切な価格・形でお客様のもとへお届けする。農業界を変える新しい試みが鹿児島でも生まれている。農業は通常、JAや卸売業者が1次生産者から農作物を買い取り全国の消費者へ届けるため、こだわりを持って丁寧に育てられた作物と機械化によって大量生産された作物、全てが同等に評価されて競争力を持たず、業界内にチャレンジが生まれ難い。そんな現状を打破すべく、そら豆農家の水迫さんがたった一人で始めた「まめそら」。WEBでの広報や加工商品の開発など、やりた

いことは山ほどあるが、畑仕事に追われてなかなか着手できないという課題を抱えている。

まずは動くことが大事！

「まめそら」での長期実践型インターンシップに挑戦した鹿児島大学2年生の吉野さくらさん。宮崎県の農家出身の彼女は「こんなに面白いことを考えて農業をしている大人もいるんだ！」と感銘を受けた。ここでインターンを決

2人3脚で歩んだ8ヶ月間

他にもそら豆レシビコンテストやこれまでに繋がりのなかった他団体との連携企画、そら豆の歴史や豆知識といったそら豆自体の情報発信など、店長と吉野さんはこれまでの事業の枠に囚われず、2人3脚で様々な挑戦を行ってきた。吉野さんは高い当事者意識を持ち、経営者の目線になって奮闘し、店長は吉野さんと「上司部下」ではなく「対等の立場」仲間として接した。結果、店長が温めてきた

多くの施策と吉野さんが考え出した新しい提案の相乗効果によって、WEBショップのアクセス数がインターン受入前の年間平均5,000アクセスから12,000アクセスにまで伸び、直帰率は10%減少し、売上・利益ともに2倍以上に増加した。

「まめそら」が果たす役割

店長は「今のまめそらは吉野さんが創った様々なご縁に支えられている」と語り、彼女が育てた挑戦の種を更に育んでいく決意を固めた。吉野さん自身も当事者意識を持つ大切さを学び、何事も自分次第であると実感した。今回の「まめそら」の実績は、一反

あたり通常の2倍以上の利益をあげるビジネスモデルを確立し、何よりたった2人でも6次産業化推進は可能であるという点の証明となった。最近では周辺農家が「まめそら」のモデルや発信方法に関心を持って「まめそら」はリーディングカンパニーとして「新しい挑戦を始める農家」が増える起点になりつつある。

インターンシップ相関図



インターン生

吉野 さくら

鹿児島大学 法文学部2年生
インターンシップ期間：2012年8月～2013年3月（8か月間）

社会に出るのが嫌で就活も絶対にしたくないと思っていたが、インターン経験者のキラキラと輝く姿を見てインターンに関心を持った。募集イベントへ参加し、店長の水迫さんと出会い、まめそらでのインターンを決意。

「勇気をもって沢山の大人に相談できたのが良かった。当事者意識をかなり高いレベルで維持し、行動していた。」

受け入れ先
そら豆の専門店「まめそら」店長
水迫 良太

農作業の傍ら、自家で栽培した質の高いそら豆に特化したそら豆専門のWEBショップを運営している。時間と体力のいる農業が優先されて思うように進まないWEBを推進するため、インターンの受入を決意した。

インターン生が壁にぶつかったとき、フォローや相談のってくれた。事業拡大のアドバイスも頂けた。



コーディネーター
末吉 剛士

水迫さんは「将来これやりたい」を頻りに吉野さんと語り、その関係性と信頼感が吉野さんの当事者意識とモチベーションを高めました。コーディネーター側は業務や施策の本質を問う役に徹し、行動促進を意識しました。

株式会社 マチトピラ

http://www.machitobira.org/
鹿児島市馬場町1-2-6F ソーホーかごま15号室
TEL:099-216-8115/FAX:099-216-8116
E-mail:info@machitobira.org